

【大賞】

すぎやま ゆう
杉山 優

お母さんへ

お元気ですか。

毎日一緒にいるけど、体調の変化に気づいていないかもしれない。最近、そう思います。

いつも朝起きると、部屋の掃除をするお母さんの姿が目に入ります。

せつせと家事をこなしていくお母さん。お買い物をするお母さん。

毎日やることが山積みで、身体の具合を後回しにしていますか。

前々から、「具合は悪い」と言っていたけど、入院した時はびっくりしました。

お父さんも心配していましたよ。

症状が軽くても、あまり自分の体調を甘くみないでください。

あの時、わたしも代わりに家事をこなしました。

家事をこなす大変さが少しは身に沁みたくも。たまにはわたしを頼ってもいいんだよ。

わたしは、入院中、自分はけっこう強いんだということがわかったから。

来年、わたしは18歳。もうすぐ大学のことも考える時期です。

日々に追われて、お母さんの体調に気づけなかったら、いつでも言ってね。

ほんの18歳。されど18歳だから。

優より

(山梨県／17歳／女性／学生)

入賞者の作品への大切な想い…

母が入院した時に感じた事を、素直な気持ちで書きました。